

事業実施主体名:山田地域都市農村交流協議会

令和8年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
富山県 富山市	R元	農泊推進型	農泊推進事業 人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

地域の温泉旅館「ふれあいの里ささみね」とコテージ「木MAMA」はスキー客の減少にコロナ禍が追い打ちをかけ閉館となり、宿泊施設がない状況となっていたが、新たに古民家を改修した宿泊施設「雪つばき」等で宿泊者の受入れを始め延べ宿泊者数は増加している。また、協議会メンバーの地域おこし協力隊が年間を通じた具体的な農業体験の計画を企画するなど新たな取組みが行われている。

2. 低調と評価された要因

売上高及び宿泊数とも目標に達していないため、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①計画(目標値)の見直し
延べ宿泊数が前年より増えているものの計画からは大きく未達となっていることから、計画(目標値)の見直しを検討されてはどうか？
②再訪を促す取組
農家民泊の宿泊者向けの体験プログラムの利用者から、感想だけではなく、当該施設の情報の入手方法や予約の決め手など詳しく聞き取りをするとともに、定期的に再訪を促すような施策を行うことはできないか。
③山田ブランドづくり
富山市近郊ながら自然豊かな地域で、一年を通じて多彩な食材が提供できるのが魅力だが、そもそも「山田」の知名度が低いのが難点と思われる。核となるブランドづくりを推し進めるのも一手ではないか。

4. 改善状況

①令和6年度に、現在稼働している宿泊施設、直売所、飲食店において、残った構成員がこれまで以上に連携・協力する計画・目標値に見直した。見直した計画により、目標は概ね達成された。
②令和7年度より、「雪つばき」が民泊申請を行った。それにより、帰農塾以外の宿泊客が利用することとなり、また、グリーンツーリズム富山や、地域おこし協力隊からの紹介により宿泊者数が増加。
③山田の案山子で販売している「リンゴジャム」を元パティシエの地域おこし協力隊のアドバイスを得て、リニューアルを行った。リニューアルを行った「りんごジャム」は好評とのこと。

事業実施主体名:矢田町スローツーリズム推進協議会、株式会社じろざみ

令和8年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
石川県 七尾市	R3	農泊推進型	農泊推進事業 人材活用事業 市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

活動拠点の復旧作業に取組み、専門家との協議やライブイベントを開くなど、多様な主体との連携を試み、観光客の受け入れ体制整備が整いつつある。

2. 低調と評価された要因

能登半島地震の影響で施設の一部が破損し、災害ボランティア(施設を活動拠点として提供)と協力し約1年かけて施設の復旧作業を行ったが、令和6年度内に宿泊事業が再開できなかったため目標は未達となったことから、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①観光事業との連携強化
体験コンテンツや近隣の観光事業との連携強化を図ってはどうか。
②多様な主体との連携
令和7年度以降も歩みを止めず、将来の飛躍に備えてほしい。

4. 改善状況

①近隣の酒屋との協業で地酒などを扱う物販を構想しているものの、実現には至っていない。また、食・体験サービスの拡充として簡単なお弁当と地域の散策マップを提供することで、七尾城などの地域資源を活かしたサービスについて専門家より提案を受けており、実施検討中。
②新規体験コンテンツのリハーサル的なWSとして、非協議会員からも聴講者を募ったうえで専門家を招き生物多様性についての講演会を行った。

事業実施主体名: 岐山半島渚泊推進協議会

令和8年5月11日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
石川県 七尾市	R3	農泊推進型	高度化促進事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

インバウンド向けに提供する体験プログラム、食事、宿泊施設は、モニターツアーによって点検、磨き上げを行い、概ね受入れ体制が構築されている。特に和船の乗船、定置網体験等の特徴を持った取組を行っていたところであるが、能登半島地震によって当地域の住居やインフラ、体験施設、宿泊施設にも大きな被害を受けている。そのなかで、復興ツアーの要望もあることから復興と並行し、渚泊に取組んでいる。

2. 低調と評価された要因

売上高及び宿泊者数とも実績に結びついていないため、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①留学生に奨学金を出している企業との連携
当初の企画は、留学生を活用したコンテンツ精査等がウリであったが、その後は継続されていないのか。留学生支援を行っている企業との連携により、定期的な体験ツアーができれば相乗効果があるのではないかと。
②渚泊の特徴を踏まえた事業推進
震災からの復興が十分でない中でも、インバウンドの定置網漁船乗船、和船・ろ漕ぎ体験が着実に伸びているのは関係者の努力のたまものであり、大変喜ばしい。復興ツアーを大々的に台湾や中国、韓国、東南アジア方面へアピールすることで、宿泊者と売上高の増加につながるのではないかと。

4. 改善状況

①継続は出来ていないが、定期的に企業連携を行っていききたい。企業連携の場合、大規模人数での受入が必須条件となるため、小規模での受入ツアー内容などの実施も今後打診していく予定である。
②復興ツアーは現在国内がメインであるが、国際情勢が落ち着けばもっとアピールしていくことも考えている。現在は近辺、国内をメインターゲットとしつつ、国外アピール方法も継続して策定していきたい。

事業実施主体名:Mizusawa Rise Conferencet(水沢棚田協議会)

令和8年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 十日町市	R5	農泊推進型	農泊推進事業 人材活用事業 市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

前年度は、宿泊客だけでなく地域住民も利用し互いに交流できる農家民宿を新たに運営するため、地域住民へ説明、他事業者、住民と連携を図りながら事業を推進し、良好と評価された。令和6年度は、主要な取組としていたコンテンツ磨き上げワークショップが、2月以降の大雪の影響により、計画通り実施できなかった。また、整備事業が大雪などの影響で開業が3カ月遅れた。

2. 低調と評価された要因

売上高及びのべ宿泊者数が目標を下回ったため、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①ワークショップや研修等の開催
専門性を持ったワークショップや研修等多数開催されている一方で、内覧会には 200 名近くの見学者があったとのこと、次年度は売上、宿泊者数とも好転するのではないかな。
②SNS 発信によるインバウンドの取込み
「雪国の日常の暮らし体験」をテーマに掲げている一方で、大雪の影響でワークショップが予定通り実施できなかったり宿泊施設の開業が大幅に遅れたりしたことで、自然を相手にした農泊事業そのものの難しさを実感されたのではないかな。事務局や構成メンバーの無念さは察するに余りある。地域住民を巻き込んだ事業スタイルは実績があるのだから、SNS 発信をよりいっそう充実させ、台湾・香港以南からのインバウンド取込みなどに注力してもらいたい。

4. 改善状況

①地域住民向けの開放日の設定や見学の対応などを都度実施しており、その中から宿泊に結びつく紹介や閑散期の地元民宿泊利用、宿泊だけではなくデイユース(撮影スポット等)の利用を促すことができている。
②多言語によるSNS発信はInstagramを中心に実施をしている。また他社のメディアやエージェントと連携し動画の撮影や投稿、観光協会などでの露出を増やすなどしてユーザーへのアプローチを実施している。インフルエンサーの招致なども実施しており、その影響で宿泊予約の獲得にもつながっている。

事業実施主体名:佐渡農漁体験創発協議会

令和8年5月29日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
新潟県 佐渡市	R6	農泊推進型	農泊推進事業 人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

体験コンテンツの磨きあげや情報発信、食事メニューの開発など計画のとおり取組を行い、更に、構成員となる農家の拡大に向け、声掛けや説明活動に取組、売上高及び延べ宿泊者数は目標を上回っている。

2. 低調と評価された要因

研修生人材の雇用に至っていないことから、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①計画の着実な実施
データに基づく現状把握と課題認識が明確であり、コンテンツの提供体制も整っている。実働部隊としての研修生獲得が課題であったため事業が進まなかった状況は理解できる。令和7年度に人材が獲得できたとのこと、その結果が期待される。

②観光資源の活用
令和7年度からの研修生を確保できたことは大きな前進であり、協議会と事務局の求人活動の労を多としたい。もともと農業、漁業の産品や観光拠点などの地域資源はほかのどの地域よりも豊富なのだが、裏を返せばそれらを十分に生かし切れていないとも言える。歴史と文化のストーリー構築にいつそう磨きをかけて内外に発信し、インバウンドや富裕層にアピールしてもらいたい。

4. 改善状況

①「スマウト」や「りとふる」などの移住や離島に特化した求人サイトへの掲載により複数人からの応募があり、2名の採用者が決まった。1名は、調理や食全般への造詣が深く、食品加工や商品開発において多様なアイデア、完成度の高い試作品の創出ができていた。また語学堪能(英語)である為インバウンド対応も可能となった。もう1名は様々な研修を実施し、体験プログラムの実行が可能な体制づくりを行うことができた。

②体験プログラム内容を磨き上げ、歴史や文化の紹介を織り交ぜながら欧米外国人が好む叙情的な表現で体験プログラムを紹介するコンテンツを整備した。人材としても英会話が可能な人材が獲得できた。今後はサイトへの掲載や海外OTAとの連携を通じ、インバウンドおよび富裕層の獲得に向けた情報発信を推進する。

事業実施主体名：アルベルゴディフーズ新湊を拓く協議会、(一社)アルベルゴディフーズ新湊を拓く会

令和8年5月29日 作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
富山県 射水市	R6	農泊推進型	農泊推進事業 人材活用事業 市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

まちづくり運営研修の実施、SNSを活用した動画の配信などの取組は計画のとおり実施したものの、主要な取組の一つ観光漁業が不漁のため計画のとおりには実施できなかった。また、宿泊施設の改修が3月末まで遅れた。

2. 低調と評価された要因

売上高及び延べ宿泊者数が目標値を大きく下回ったため、低調と評価する。

3. 目標達成に向けた方策

①宿泊単価の見直し
あらゆる価格が高騰の中、宿泊施設改修を機に宿泊単価の見直しも検討されてはどうか。

②SNS 等の発信による誘客
継続的に動画配信がされ、若者をターゲットとした誘客がなされており評価される。次年度からの実績等が期待される。

③地域ならではの取組
前年度、実施体制を見直したので伸長を期待していただけない物足りない思いがする。ころなしか最近では、「アルベルゴディフーズ」を掲げたイベントのメディア露出が少なく、積極的な宣伝活動が期待される。震災の影響からか白エビ漁が著しく低調なのは想定外の痛手であり、まち全体の元気がないのかもしれないが、新湊には全国でも珍しい「昼せり」が残る。カニのシーズンもこれからであり、本年度の取組みに期待したい。

4. 改善状況

①dynamic pricingを適用、週末や連休では通常より高い価格帯となっている。なお、最も注視するのは周辺の民泊や宿泊施設の価格帯であり、現状各々特色があるが、民泊の場合、ある程度価格を重視する客層でもある。物価高の下、周辺情報を注視していく。

②人材活用事業の人材が本業専念等の事情も有り、継続的活用が難しいため、昨年11月からITやSNS発信の専門家とコンサル契約(基本R8年12月迄、継続活用の可能性あり)。WebsiteやInstagram、Google map他、体外発信関連での諸々の表現含め改善を実施中。戦略的な発信の重要性を再認識し、色々協議中。
例) <https://www.info-toyama.com/articles/sushiyoshio-yuhei>
設置したDigital mapを通じたPRや観光力向上の為、射水市観光協会と協業、当方の基盤を提供し、多面的な活用をして行く予定。

③アルベルゴディフーズ(AD)正式認証(現在startup認証 最終年)に就き、費用負担等が高み、費用対効果を再考。ADの発想や哲学は日本に適合する観光モデルと確信しており、認定取得よりも「実」を取る方針。よって、ある面PRを控えた事情にあった。新聞数社から取材を受け記事化されたり、JNTOからも取材を受け、海外向けnewsletter 4月号「Japan Tourismspotlight by JNTO」に記載された(数カ国から記事活用の問い合わせあり)。そのほか、地元企業季刊誌「ECOだより」(射水市他に4万部配布)にも記事化予定。
https://www.jnto.go.jp/en/news/newsletter_2026_04_1.pdf
白エビ漁観光は3年ぶりに5月8日から再開し、マスコミでも報道された。新湊漁協との新たな取組の模索・継続を行い、「新湊かに小屋」と協業予定である。地域ならではの取組(富山湾・漁業・祭りの三位一体)はAD新湊の核心であるので、尽力して行きたい。

事業実施主体名: いっぱいぽ株式会社

令和7年10月27日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
富山県 上市町	R5	農福連携支援事業	農福連携の取組

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

利用者数が増えているのは地域に受け入れられ、また障害者やその家族から信頼されている働き口であるという証左であり、心強い。水耕栽培施設の整備が遅れたということだが、整備後は加工技術の習得も進展することを期待したい。

2. 低調と評価された要因

水耕栽培施設の整備が、能登半島地震の影響等で遅れたことにより、売上高が目標値に至らなかった。また、主要な取組である食品加工技術の習得、マルシェ・収穫祭及びカフェでの交流が実施できなかった。このため、低調な評価とする。

3. 目標達成に向けた方策

＜障害者等の雇用・就労＞
作成した障害者向けの作業マニュアルを見直して、作業の効率化を図り、誰でも作業に携われる環境を整える。
＜売上高＞
地域の直売所に野菜を卸すほか、多品目栽培でニーズに対応する。
＜地域との連携＞
地域のマルシェに参加するほか、直売所で地域の交流を図る。

4. 改善状況

作業効率が向上し、利用者の習熟度も上がり、品質の安定に繋がっている。
販売先が1カ所から5カ所になり、地域の直売所だけではなく、温泉施設での販売により地元での認知度が向上し、固定客が増えている。

事業実施主体名：氷見ふるさとエネルギー株式会社

令和7年10月22日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
富山県 上市町	R5	農福連携支援事業	農福連携の取組

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

計画の着実な実施
耕作の再開にはよほど多くの手間とコストがかかるかもしれないが、工夫してチャレンジしてみてもらいたい。事業主体の企業は「オール氷見」プラス電力会社・金融機関であり、理念も高い。このスキームで次に続く地域のお手本となるためにも、周辺の他の農地も合わせて活用すること等も含め、知恵を絞り出してもらいたい。

2. 低調と評価された要因

太陽光発電所に隣接する遊休農地を活用して無農薬野菜の栽培及び柿の栽培は専門家の指導の下、就労継続支援事業所と連携し取組まれている。しかし、当該農地は長年耕作されておらず、農作物が育つために必要な土壌の養分が不足し、計画した収穫量が得られず売上高が目標値を下回り、野菜の販売イベントでの交流人口も目標値を下回った。このため、低調な評価とする。

3. 目標達成に向けた方策

農地の土づくりを優先し、野菜の収穫量を増やす。
野菜の栽培、収穫など、引き続き福祉事業所と調整し連携を図る。

4. 改善状況

土づくり(堆肥の投入)を実施したことにより、野菜の収穫量が増えている。また、地元の直売所で野菜を販売することで、地域の交流を図っている。